

その他の国際関係の活動

(1) 世界医学教育連盟世界会議 2019（韓国）

世界医師会クロイバー事務総長から横倉会長への参加要請に応じ、平成 31 年 4 月 7 日から 9 日、ソウル（韓国）で開催された世界医学教育連盟世界会議に羽鳥裕常任理事が出席した。

本会議は、「21 世紀における医学教育の質的保証」をテーマに、医学教育から医師のキャリアを通じての生涯教育、認定プログラムにおける諸問題、認定機関の取り組み、卒後教育の質向上のための基準と認定、将来における認定および承認、ECFMG（外国医学部卒業性のための教育委員会）プログラム等をテーマに、全体会議、分科会シンポジウムが行われ、世界 56 ヶ国、約 800 名が参加した。

(2) 日中医学交流会議 2019 東京（東京）

日中医学交流会議 2019 東京が、日中医学協会と中国医師会の主催ならびに日本医師会の共催により、令和元年 6 月 19 日に日医会館で開催された。中国から中国医師会関係者、座長・演者等総勢 55 名、日中医学協会役員および演者・座長 34 名の他、一般参加者約 300 名が参加した。本年度のテーマは、日中両国の医療における最大の関心事である「がん治療の現況と近未来」であった。本庶佑京都大学特別教授が「PD-1 阻害によるがん免疫療法」と題し、基調講演を行った他、シンポジウムでは、「ウイルス治療」、「分子標的治療」、「放射線治療」、「内視鏡治療」の 4 つのセッションが行われた。

シンポジウムの最後に、日中両国専門家の共同による「東京宣言」が採択された。宣言では、がん治療において、日中両国の医・歯・薬・看護などの専門家の意思疎通と交流を強化し、長期的かつ効果的な協力体制を構築し、その成果を共有することを約束している。

(3) フランス共済組合連合会との意見交換会（東京）

令和元年 7 月 17 日、フランス共済組合全国連盟の 15 名が日本医師会館を訪問し、意見交換会を開催した。この訪問は、鈴木邦彦前常任理事がフランスの医療制度を視察した際、全国被用者疾病保険金庫（CNAMTS）へ訪問したことが契機となった。意見交換会には、道永麻里常任理事と鈴木前常任理事が参加し、健康寿命の延伸と地域包括ケアの推進についてプレゼンテーションを行った他、両国の最新の医療制度について議論を行った。

(4) 第 6 回メキシコ日系医療セミナー（メキシコ）

令和元年 8 月 10 日から 13 日にかけて、メキシコ日系人医師会およびメキシコ日本医療財団のホセ・ルイス・アカキ会長からの招待に応じ、横倉義武会長がメキシコを訪問した。メキシコシティでは、野口英世博士来墨 100 周年記念第 6 回メキシコ日系医療セミナーで講演を行った他、保健省を訪問し、意見交換を行った。また、野口博士が 100 年前に来墨し黄熱病の研究を行ったユカタン半島メリダ市では、高瀬寧在メキシコ日本国特命全権大使等と「ジャパンフェスティバル 2019」に招待された他、

ユカタン自治大学の野口英世地域研究センターホールで行われた野口博士来墨 100 周年記念式典で祝辞を述べた。

(5) 2019 年度中日両国医学交流フォーラム（中国）

令和元年 10 月 18 日、中日友好病院創立 35 周年を記念して「日中医療と病院経営」をテーマとして開催された「2019 年度中日両国医学交流フォーラム」に、横倉義武会長が同病院孫陽院長の招待を受け、出席した。

横倉会長は講演で、日本医師会、日本の医療について、「かかりつけ医を中心とした地域包括ケア」、「健康寿命の延伸」、疾病への取り組みとして、がん、糖尿病、脳卒中と循環器病、COPD の対策を紹介した他、6 月 19 日に開催された「日中医学交流会議 2019 東京」について報告した。

(6) ワールド・アライアンス・フォーラム in サンフランシスコ（アメリカ）

令和元年 10 月 30 日、主催者である原丈二アライアンス・フォーラム財団代表理事から横倉会長への招待に応じ、2019 ワールド・アライアンス・フォーラム in サンフランシスコに今村聡副会長が代理出席し、挨拶を代読した。フォーラムでは、「Healthcare Game Changers：新たなトレンドとテクノロジー」をテーマに、「天寿を全うする直前まで健康でいられる社会を実現する」ために必要不可欠な、技術革新、制度革新、イノベーション・エコシステムに関する課題について議論が行われた。

(7) 第 7 回人間を中心とした医療国際会議（東京）

日本医師会と人間を中心とした医療国際組織（ICPCM）の共催、本会産業保健委員会の協力により、令和元年 11 月 2 日、「第 7 回人間を中心とした医療国際会議」が日医会館大講堂で開催された。本会議は、ICPCM ジョン・スネーデル会長（世界医師会元会長・アイスランド医師会）から横倉会長への開催要請に応じたものである。

ICPCM は、2008 年、ジュネーブにおいて人間中心の医療促進のための国際的イニシアチブが開始されたことを契機に、世界医師会（WMA）の協力の下に設立された。ICPCM では、人間中心の医療の概念は、医療を求める人の個々の価値観、ニーズ、全体的な特性に焦点を当てた医療の提供にあると定義している。設立以来、毎年 3 月に「人間を中心とした医療に関するジュネーブ会議」を開催している。2013 年からは、人間を中心とした医療の観点から、医学教育、がん治療、非感染性疾患（NCDs）等をテーマに、各国においてこれまでに 6 回の国際会議を開催している。

第 7 回となる日本での国際会議は、「ワーク・ライフ・バランス：課題とその解決手段」をテーマとし、ミゲル・ジョルジュ WMA 会長他加盟国医師会、ICPCM 役員を含む 11 か国 22 名の海外参加者、日医会員、産業保健医、医師、医療関係者、医学生、一般から、合計 367 名の出席の下に開催された。

会議では、「人間中心の医療の概念、ワーク・ライフ・バランス及び燃え尽き症候群」、「医療専門職における労働時間と働き方改革の国際比較」、「医療専門職の訓練及びワーク・ライフ・バランスと燃え尽き症候群の予防の推進」、「Well-being、医療制度、管理と職業上の安全に関する国際展望」について講演および議論が行われた。

(8) 台湾医師会那須塩原市視察団に関する協力

日本政府は、「観光ビジョン実現プログラム 2019」を策定し、地域の新しい観光コンテンツの開発を目指している。その一環として、地域の医療・観光資源を活用した外国人受入れ推進のための調査・

展開事業として、栃木県那須塩原市では、栃木県医師会那須塩原温泉病院を中心とし、ヘルスチェック・温泉療法を利用した事業が検討されている。横倉会長は、栃木県医師会からの協力の要請を受け、プログラムに対する外国人の意見を収集するため、台湾医師会に那須塩原市への視察を依頼した。

2月12日から13日にかけて、台湾医師会洪徳仁理事、王維昌理事（宜蘭県医師会長）、呂紹達事務局長補、林恒立事務局長補が那須塩原市を訪問した。プログラムの体験をもとに台湾医師会から寄せられた意見を参考に、プログラムのさらなる検討が行われている。また、来日中、道永麻里常任理事が台湾医師会と意見交換を行った。

（9）その他

海外より日本の医療情報を収集するために来館した場合などには、役員が対応し資料等の提供を行っている。また、国際課では海外からの医療・医学関係の問い合わせに対しては資料を送付するなど適宜回答している。